

【虹のその先 編】

リールが楽譜を手にも口ずさんでいる。
こめかみにガーゼ。(4人も同じく)

【虹M1】 その名は虹

リール

Lalala...

降り続いた雨の先

空にかかる大きな橋

不安で立ちすくむこの足

でも隣には

共に渡る仲間たち

その橋の名は

虹

＋ノーチ
＋ノクト・ホク
＋ユオ

リール 「…虹、渡っちゃったね」
ユオ 「せやな」

ノクト 「ん？ どゆこと？」

ホク 「ノクト？」

ノクト 「虹、いつ渡ったの？」

リール 「え？」

ノクト 「ってか虹って渡れんの？」

一同 (笑)

ノクト 「…え？ …え？」

ホク 「ごめん。ノクト。これは俺もフォローできない」

ノーチ 「…」

ノーチとホク、無言でノクトから距離をとる。

ノクト 「ちょ…。マジ。何？」

ホク 「本当にわからないの？」

ノクト 「え？ 何がわかってないのかを、わかってない」

ノーチ 「やべえ」

ノクト 「おい、ちょっと。三人でほら…、なんかチーム！みたいな感じだったじゃん！」

ホクとノーチ、何のこと？的な。

ユオ 「一緒にせんといてほしいよな？」

ホク・ノーチ（大きくうなづく）

ノクト 「ふぎけんなよ」

ホク 「ごめんごめんって。だから…」

ホクがノクトに歌詞の解説を始める。
のを背景に、

ユオ 「リールは、この後どうする気なん？」

リール 「…ユオは？」

ユオ 「行く当てないからなあ…しばらくは世話になろうかなあって」

リール 「みんなそうだよね」

ノクト 「え？ あー！ー！ そういうこと？」

ホク・ノーチ「そういうこと」

ノクト 「すっげーいい歌詞じゃん！」

ユオ 「おっそ！」

ノクト 「リールすげーよ！！」

リール 「(笑)ありがと」

ノクト、楽譜をマジマジと見て、

ノクト 「ライラ、よかったなー！！ こんないい歌詞付けてもらって…！」

それは、不思議と悲しい響きはしてなくて…。
でも、しみじみとその空気に浸っていたら、

リヒト 「なーに感傷に浸ってんだよ」

オーブ 「そこは浸らせてあげなよお」

リヒト 「しけた面は嫌いなんだよ」

ナイト 「あんたがそれ言う？」

リヒト 「文句あつか？」

ナイト 「文句じゃなくてただの感想」

オーブ 「もー、ほらー！ みんな続き待ってるからー」

アルバ 「とりあえず、ここ（こめかみ）の経過は順調だよな？」

オーブ 「(誰かのこめかみを確認して) うん。ばっちり！」

アルバ 「取り出したチップは」

リヒト 「アークに送りつけてやる予定だ。異存はねーよな？」

A B O 達は、(戸惑いながらも) うなづく。

オーブ 「リヒト君ってそういうところ律儀だね？」

リヒト 「はあ？」

アルバ 「送りつけてやるー！とか言ってるけど」

オーブ 「『お世話になりましたー！！』ってことでしょ？」

リヒト 「：別にそういうわけじゃねー」

ナイト 「そういうわけだってさ」

リヒト 「チッ：」

オーブ 「ノーチ、今のは？」

ノーチ 「照れ隠しの舌打ち」

リヒト 「！！っ くっそ。後は、好きにしろ！」

リヒトは去っていく。

オーブ 「もー、そこが大事なのに」

リール 「後は：って：」

アルバ 「まだ本部もざわついてるから、外に出たA B O 達を今後どうしていくのかはわからない。おそらくは保護対象になり、外でも安心して生きていけるような制度が設けられるつてのが、俺の予想」

オーブ 「すぐってわけにはいかないだろうけど」

ナイト 「ま、それまではこいつらの世話になっただろ？って話」

ノクト 「：でも：なあ？」

ホク 「：うん」

オーブ 「今更遠慮とかする？」

リール 「あのさ：。何か：、手伝えることはないかな？」

ノクト 「俺も！！ 何ができるかわかんねーけど」

ホク (手を挙げる)

ノーチ (手を挙げる)

オーブ 「：なんかデジャブ(笑)」

腹の虫。：。

一斉にナイトに視線が集まる。

一同 「……」

オーブ 「とりあえずはさ」

アルバ 「そうだな」

オーブ 「ご飯作るの手伝って」

突如始まるオープニング。

【虹M2】 Re:trigger

欲しいものはナニ？
聞かないで 聞かないで
与えてくれないなら聞かないで
ここにいるイミ
知らない 知らない
教えて欲しくもない 黙ってよ

産声を上げたのがハジマリ
僕も俺も君もあなたも
吸い込んだ空気
眩しすぎる光
生きる絶望を知って
泣いたんだ

この船に 乗せたいのは…ダレ？
オレじゃない キミじゃない /ダレ？
来るかもわからない大洪水
この船で 救いたいのは…ナニ？
ララバイ ララバイ
レクイエムにも似ている 子守歌

Re:trigger

終わりは始まりの合図

Re:trigger

引き金は君の手の——ナカ

カタカタと仕事中のイーリス。
突如やってくるナイト。

ナイト 「精が出るね」
イーリス 「!!!っ …不法侵入って言葉知ってるか？」
ナイト 「このセキュリティ、まじ使えねーのな」
イーリス 「超天才ハッカーにかかりゃどんなセキュリティも意味ないだろ」
ナイト 「それはそう」
イーリス 「何の用だ？」

イーリスのPC（ないけど）を覗いて、

ナイト 「（読む）報告書… 今回の騒動のか」

イーリス 「上に提出しなきゃならない。できるだけ詳しくって」

ナイト 「んなの適当でいいんじゃないの？ 本当のことは誰もわかんねーだし」

イーリス 「本当のこと？」

ナイト 「一人一人が何を思っ、どんな風になっ、なんであの時あんな決意したのかーとかさ、本人だってよくわかんねーのに、他人がわかるわけねーじゃん？」

イーリス 「…そうだな」

ナイトが何かをイーリスに渡す。

それは、メモリーカード。

イーリス 「これは？」

ナイト 「アルバから。ライラのデータをまとめたってさ。直接渡すのが一番安全だろう？」

イーリス 「…俺に？」

ナイト 「お前に」

イーリス 「…わかった」

ナイト、無言で近づき、イーリスに拳を突き付けて、

ナイト 「無駄にしたら承知しねえ」

イーリス 「…ああ」

ナイト、PC前に座ると、指一本で報告書の続きを打ち始める。

イーリス 「おい。なにやってんだよ」

ナイト 「（打ちながら）…そ、の、とき、ちょー、かつけー…、ナ、イ、ト、さまの、とー、じょー…っと」

イーリス 「（笑）…ふざけんな」

ナイト 「仕方ねえから手伝ってやるって言ってるの」

イーリス 「頼んでない」

ナイトをどかすとPC前に座り、ナイトが打った文章を消す。

ブザーが鳴る。

イーリスが白衣を手に立ち上がる。

ナイト 「午後の検診？ いつも通り、なんだ？」

イーリス 「…少しずつだが変わっている」

ナイト 「アルバがなんか開発してるって言ってた」

イーリス 「チップか…。企画書送られてきた」

ナイト 「オーブも他の奴らも色々動いてるよ」

イーリス 「A B O 支援活動？」

ナイト （うなづく）

イーリス 「俺も…、もうすぐ本部へ移る。M.E.イベントの補佐役を志願した」

ナイト 「…いーんじゃない？」

イーリス 「(行こうとして)すぐ戻るから、勝手なことするなよ」

ナイト 「へーい」

イーリス、去っていく。

ナイト、P C に向かう。

ナイト 「(読む)『報告書。…【第17アーク】で起きた幾つかの…奇跡について』」

ナイトが読み進める中、ダイジェスト的に…。

【虹M1】 選ばれた者 生かされる場所

A B O たちが登場。

飛び交う台詞。点在するノア、イーリス…。

ノア 「初めてA B O たちを見たとき、どう思った？」

イーリス 「ロボットみたいだなんて」

ノア 「それから？」

イーリス 「生きてる…じゃなくて、生かされているんだなって思ったよ」

規則正しい生活、ルールの中で生きているA B O たち。

(P C を見ているナイトは時間軸が違う)

A B O たち

何一つ 不自由なく

何一つ 恐れることなく

何一つ 疑わず

起きる 学ぶ 食べる 眠る 生きる

何一つ 不自由なく

何一つ 恐れることなく

何一つ 疑わず

起きる 学ぶ 食べる 眠る 生きる

僕(俺・私)たちはA B O ——選ばれた者
ここはアーク ——生かされる場所

イーリス「もっと君たちのことが知りたいんだ。何が好きで、趣味はなんだ？とか。くだらないことでもいいんだけど」

イーリスを見つめているエレ。そして、ムスタ。

ムスタ 「エレ君は戸惑ってたみたいだけど、僕は…、不謹慎だけどワクワクしたなあ。何かが始まりそうで」

イーリス「あの！」

【虹4】 Day by Day ――

ムスタ 「学習計画の改定案？」 ABO Day by Day…

イーリス「はい。これまでのカリキュラムはとても閉鎖的です。

もっと外のことを学ぶべきです」

ムスタ 「彼らが外に出ることは」

イーリス「ある、かもしれないでしょう？」

ムスタ 「……」

ABO Day after Day…

エレ 「遠足??」

イーリス「もちろん森からは出ません。もともと人里からは隔離されてるし、塀の外にちよつと出たところで危険はないはず」

エレ 「それはそうだけど」

イーリス「彼らが逃げるかも？」

エレ 「……」

イーリス「聞き分けのいいイイ子たちなら、大丈夫ですよ」

ABOたち Day by Day…

ムスタ 音がする

エレ 確かに聞こえる

ムスタ・エレ 何かが変わる音

ムスタ 繰り返しの日々 ABO Day after Day…

エレ 代り映えしない日々

ムスタ・エレ そんな Day after Day…

味気ない

日々だったけど…?

曲調が変わる。

A B O たち Day by Day！

音がしたんだ

何の音？

何かが崩れて

風が通る音

誰が空けた？

小さな風穴

ムスタ・エレ Day by Day

イーリス ここにいたままじゃ

何も知らないまま

ナイト、P Cを打ち始める。

ナイト 「∴『その時、超かっけーナイト様の登場』∴っ！」

A B O 達の中に飛び込んでいくナイト。

A B O たち Day by Day！

音がしたんだ

何の音？

世界が色づいて

風が染まる音

誰が空けた？

新たな風穴

イーリス・ムスタ・エレ Day by Day…

A B O たち Day by Day！

ナイト 音立てていこうぜ

A B O たち 確かに生きてる

その証を叫べ

遠い雷鳴。雨がしとしとと降り始める。

イーリス、モノログ。途中からP Cを読んでいるナイトへ焦点。

イーリス「明らかにA B O 達の様子は変わっていった。でも、希望を与えることが果たしていいことなのか…？」

+ナイト「その疑問を抱えたまま」

ナイト「deluge…実験期間が始まろうとしている」

台詞の断片が飛び交う。

エレ 「彼らは初めてじゃない。今までに数えきれないほど、死と隣り合わせの実験を受けてきた。試されることを知っている。…彼らは選ばれし者たちだ」

ユオ 「(笑) そんな顔せんといてや。葬式とちゃうねんで」

ノア 「笑うしかないときってあるでしょう」

リール 「その……。トリガーの申請って……。そうですか。わかりました」

エレ 「…教わらなかったということは知る必要がないんだよ」

ホク 「笑ってよ。こいつ臆病だなーって笑ってよ。俺のこと。ね！」

ノクト 「笑わねーよ。…俺もこえーもん。なんか知んねーけど、いつもより全然怖い」

リール 「メロディ聞いた時、ぱあっと明るくなって、気持ちよくて…雨上がりの空みたいな気がして…」

ライラ 「またきよくができたら、リールにかしかいてほしいな」

ノーチ 「別に…いなくなれなんて言っただけ。…邪魔じゃない。ハモるの…楽しいし」

オーブ 「家畜を育てる人たちの気持ちに似てるんじゃないかなあって、予想。美味しく育て…って愛情込めるでしょ？ 絶対食べられるってわかってるのにね」

イーリス 「そうだね。…家畜を育てたことはないけど、似ている気がするよ」

【虹M5】 The night before

エレ 「初めての実験の前日は怖くて眠れなかった」
イーリス 「……」

イーリス The night before

いの夜

The night before

ユオ 実験前夜

ノクト いつもの夜なのに

ホク
いつもの夜だから
四人 The night before
ユオ・ノクト
本音漏らしたりして
イーリス・ホク
弱音吐いたりして
四人 この夜

ライラ The night before
リール 実験前夜
ライラ いつもの夜なのに
リール いつもの夜だから
二人 The night before
ライラ 未来を語って
リール 約束なんかして
ノーチ 素直になってみたりして

三人 The night before
この夜
A B O たち The night before
この夜

ナイト 「(読む)『…実験開始』。…ここまでか。こっからがおもしろーのに」
そこに白衣を脱ぎながらイーリス登場。

イーリス「勝手に触ってないだろうな」

PCをのぞき込んで、

イーリス「おい。この一文は何だ？」
ナイト「脚色してやったんだろ？」

イーリスは無言で Back Space を連打。

ナイト「…『第17アーク』で起きた幾つかの…奇跡について」
イーリス「……」
ナイト「奇跡…、なんだ」
イーリス「…奇跡、だろう？」

ナイトはにやりと笑って、大きく伸びをする。

ナイト 「さあて、腹も減って来たし帰ろっかな」

イーリス 「エレには会っていかないのか？ この時間なら部屋に」

ナイト 「今日はいいや。またいつだって来れるし」

イーリス 「セキュリティ強化しておくよ」

ナイト 「そんなこと言ったらアルバ燃えるぜ？」

イーリス 「…(笑)開発中のチップ、期待していると伝えてくれ」

ナイト 「へいへーい」

ナイト、行こうとして、

ナイト 「チップの試作品出来たら俺が届けにくるから…。そんな時、報告書の続き読ませてよ」

イーリス 「……」(肯定の意)

ナイト 「じゃー!!」

ナイト、帰っていく。

それを見送ったイーリス。PCに向かい、続きを打つ。

イーリス 「実験開始。…彼らの不安に揺れる目が、忘れられない」

カタカタ…

鼓動のリズムに重なっていく。

【虹M6】 慟哭AB

リール 聞こえる鼓動が 自分のもんじゃないみたいで

曖昧な不安が

ノクト トクン トクン

リール トクン トクン こだまする

リール・ノーチ 流れる血の赤 噛み締めた唇ににじむ

鈍い痛みだけが

ホク ドクン ドクン

リール・ノーチ ドクン ドクン 支配する

ライラ Ah…

ノーチ Ah…

ノア 「ABOは、みーんなロボットみたいなイイコ…それってクソみたいじゃんか」

12

＊（ナイト以外）

聞こえる鼓動が

自分のものじゃないみたいで

ノア 生かされてるのか

曖昧な不安が

トクン トクン トクン トクン…

生きているのか

こだまする

ナイト

終わりの時まで

＊

トクン

トクン

ドックン

刻み続けるこの鼓動は

トクン

トクン

ドックン

確かにここにある

トクン

トクン

ドックン

ドックン ドックン

トクン

トクン

ドックン

ドックン ドックン…

ナイト

こだまする

チームリヒトが浮かび上がる。

イーリス「彼らは——」（続きを打つのを少しためらう）

ノアを取り囲むABOたち。

ノア 「ここを…ぶっ潰す。俺たちの作戦名は——」

【虹M6】 Re:trigger rep～Break down

ノア

Re:trigger

終わりは

始まりの合図

Re:trigger

ABOたち

Re:trigger

引き金を引く時は

引く時は

——イマ

——イマ

＊

産声を上げたのがハジマリ

僕も俺も君もあなたも

吸い込んだ空気…

眩しすぎる光…

ノア

「絶望の先に何があるか、知りたいじゃん？」

ノア

Re:trigger

引き金引き直すんだよ！
 吉と出るか凶と出るか
 わかんねーからいいんだろ？
 明日死ぬかもしれないから面白い
 黒が白になるから面白い

リール 「俺は…あなたの船に乗る」

ノア 「(にやりと笑って) ご乗船ありがとうございます」

A B O たちの目の色が変わる。

* Break down

価値観ごとぶち壊せよ
 吉と出るか凶と出るか
 わかんねーからいいんだろ？
 明日死ぬかもしれないから面白い
 神様なんていないから面白い

Break down

Break down

Re:trigger

引き金引き直すんだろ？

Break down

価値観ごとぶち壊せよ

Break down

Break down

Re:trigger

意を決した様子で前を見据えている皆。

イーリスは続きを打つ。

イーリス 「彼らは――、テロリスト…」

イーリスは、少し考えて Back Space を押し、修正する。
 カタカタ…
 それを、のぞき込んで読むエレ。

エレ 「『救世主』だった――」

イーリス 「うわっ!!」

エレ 「おや、驚かせて済まない」

イーリス 「気配消して近づくのやめてもらえます?」

エレ 「消してるつもりはないんだが…」

イーリス 「…あー、もー、びっくりした」

エレ 「救世主、ねえ」

イーリス 「あ、いや…、違います。言葉のあやっというか…その…(消そうとする)」

エレ 「いいんじゃないか? 思ったように書けばいい」

イーリス 「…」

エレ 「変わろうとしてるんだよ。みんな」

イーリス 「はい」

エレ 「正式に異動が決まったらしいね」

イーリス 「はい」

エレ 「そうか。寂しくなるな」

イーリス、深々と頭を下げる。

エレ 「何?」

イーリス 「お世話になりました」

エレ 「(笑)早くない?」

イーリス 「(顔をあげて) 忘れないうちに」

エレ 「普通忘れないと思うけど」

イーリス 「じゃ、異動する日まで毎日言いますよ」

エレ 「なんだか価値が薄れそうだし、…なにより、うざいね」

イーリス 「(笑)」

【虹M7】 Judgment Day〜その光の名は自由

イーリス、再びPC前に座る。続きを打とうとして、

イーリス 「思ったように…か」

エレ 「そう。自由に」

イーリス 「…自由って、難しいですね」

エレ 「そうだな」

イーリス 「それに、怖い」

エレ 「そうだな」

イーリス 「でも…」

イーリス、ナイトから受け取ったメモリーカードを手にする。

イーリス「だから、いいですね」
エレ「……そうだな」

メモリーカードを大事にしまい、イーリスは続きを打ち始める。

*

Judgment Day…

光を知らなかった

Judgment Day…

黒い雲に覆われて

Day by Day

A B O たち

雨が洗い流す 見えない恐怖

雨が消し去る 抗えない運命

夜が明ける

その時は今

射し込む光

その光の名は

自由

まばゆい光が差し込む。

暗転。